

特集「子育て支援 NP プログラム」

子育て支援 NP プログラムの保育を通して

ー 母親の変化が子どもに与える影響 ー

篠原 稚恵¹

「ノーバディーズ パーフェクト・プログラム (NP)」保育への参加を通し、母親の偉大さ、育児の大変さ、そして母親の変化が子どもに大きな影響を及ぼすということを身をもって体験することができた。

今回の NP において、週 1 回 2 時間、8 ヶ月～1 歳までの子どもの保育を担当した。初めは子どもたちの悲鳴にも近い泣き声を終始聞き続けることに圧倒された。また泣いている子どもたちを見ていると「大好きなお母さんと引き離してしまった」という罪悪感を覚え、なんともいえない気持ちになってしまうこともあった。しかし回を重ねていくごとに、子どもたちに徐々に変化が現れたように感じる。NP1・2 回目では、母親と引き離されることに納得いかず終始泣き続けていた子が、4・5 回目になると初めのうちだけ泣くと、後はブスツとしたふくれっ面でしぶしぶ遊び始める。その後ろ姿からは「泣いたって、どうせお母さんは迎えに来ないんだ。でも絶対あとで迎えに来てくれるんだ」という気持ちがうかがえ、これはこの子が毎週の NP 保育を通して学び得たものだと、保育を担当した学生同士で話し合うこともあった。当初、不安と緊張で笑顔の少なかった子どもたちが、最終回では音楽に合わせて体を揺らし、笑顔を見せ、特定のお姉さんをキープし抱っこをせがみながらも、自らおもちゃで遊ぶようになるなど、とても落ち着いた雰囲気の中で 2 時間を過ごせるようになった。たった週 1 回、全 6 回の経験がこんなにも子どもたちを変えるものなのかと本当に驚き感心した。また、心配そうな顔で急いで子どもを迎えに来て、そのまま一目散に帰っていた母親が、次第に他の母親同士で雑談をしながら焦ることもなく笑顔で迎えに来るようになったり、預ける際にも後ろを振り返らずに、躊躇なく会場に向かうようになるなど、母親の変化がみられてきた。そしていつの間にか、母親が迎えに来るか不安で今にも泣き出しそうな顔をして待っていた子どもたちが、笑顔で、どこことなく余裕が感じられる顔で母親を出迎えることが出来るようになった。そして『まだ遊び足りないんだ!』と、ずっとおもちゃにしがみついていた子どもの姿も見られ、母子ともに一緒に変化していると感じた。また「この子はここに来てから少し成長したんですよ」と誇らしげに笑顔で話した母親の子が、その笑顔に反応するかのように、保育中に笑顔をたくさん見せるようになった。

子どもというのは、私にとって「たった 2 時間」と思える短い時間の中で、想像していたよりもはるかにたくましく、大きく成長する。そして子どもは一人で成長するのではなく、その母親の変化・成長・心の動きも大きく影響してくるものなのだと実感できた。

¹ 広島文教女子大学大学院人間科学研究科教育学専攻

NP 保育の体験から，“母親”という存在の偉大さをもう一度考えさせられるとともに、自分の母親もそうだったのかと考えることで、親という存在に改めて感謝・尊敬することができた。そして自分自身が子どもを育てていく姿を想像しながら、子どもを育てるということの尊さと難しさを考えさせられる貴重な経験であった。